

夢中熱中青春ライフ!



23

大館フットボールクラブ(サッカー)

ボールを奪い合いながら相手のゴールを目指すサッカー。今春からプロサッカー「Jリーグ」がスタートしますから、サッカーファンにとってはうれしいことでしょう。今回は、サッカーが好きで健康のために続けている大館F・Cをご紹介します。代表の長内清孝さんからお話を伺いました。

結成当初に比べ

サッカー人口増加

クラブができたのは、昭和五十七年です。ほかの社会人チー

ムに入っていた高校のクラブの先輩から「大館にもチームを作らないか」と話があつたのがきっかけで、地元にあったサッカー部の先輩や同級生が中心となつてメンバーを集めたんです。

当時、県北には鹿角と鷹



天皇杯サッカー県予選大会に出場した皆さん
(前列左から2人目が長内さん)

巣、二ツ井にしかチームがない状態でしたから、県北で開催される社会人の大会はなかったですね。ですから、秋田市まで出掛けないと大会に出場できませんでした。五、六年くらい前から、県北でも春の豊富杯、秋の県北サッカー協会長杯など、社会人チームが参加できる大会が開催されています。また、去年から県北社会人リーグ戦も開催されるようになりましたから、サッカー人口が少しずつ多

くなってきたと喜んでいました。クラブ員は、現在十八歳から三十五歳まで三十一人。職業がまちまちですし、長期出張や勤めの関係で練習や試合に來れない人が多いですね。それが、悩みの一つになっています。

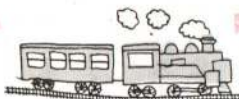
けがに気を付け

技術の向上を図る

私たちは、サッカーを通じて、みんなで楽しく健康を保つために続けていくことをモットーにしています。でも、試合になると負けたくないですから、技術の向上を図るため週二回は欠かさずに練習をしています。ただ、みんな仕事で大事ですから、けがをしないように気を付けています。ヘディング、タックルなどのボールの奪い合いは「格闘技」だし、一試合に十人以上も走るので、かなりハードなスポーツですから。

サッカーは、県内、特に県北ではまだまだマイナーなスポーツです。日本にもプロのサッカーチームができて、今年からJリーグが始まります。プロサッカーの誕生は、サッカーをやっている人たちには励みになりますし、サッカー熱が盛り上がることもつながります。県北でサッカーが盛んになることを期待しています。

東京発 → 大館着



前略

大館市民になりました 24

☆今回は花岡・白根山団地の白賀賢さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか?

妻の恭子と二人です。

Q・どちらから転入されましたか?

去年の四月、東京から転入しました。私は岡山出身で広島育ち、大学生活を東京で過ごしましたから、大館は自分が経験した最北の地です。神奈川生まれの妻も、私と同じで心がワクワクしているそうです。

Q・大館の印象はいかがですか?

たいていの鉱山は山の中にありますが、大館の場合は街の近くにあるので驚きました。雪は、まあこんなものか、といった感じでした。スキー場が近いのがうれしいです。

Q・食べ物や言葉などはどうですか?

まず、来たときに水がおいしいと感じました。酒も口当たりがいいし、米も野菜もうまい。妻は「いぶりがっこ」が気に入りのようです。言葉には、まあ慣れました。

Q・大館にどんなことを望みますか?

「ODATE」というのは、響きがきれいです。その響きに見合うような統一した街並み、たとえば「館」をイメージした歴史を感じさせる通りなんかがあれば町の個性が出てくるんじゃないでしょうか。それと、二十代をターゲットにした遊び心を満たす施設も欲しいですね。

